



江戸開物社
西洋雜誌
逐月刊行
卷二

定價貳匁

西垣文庫
文庫 10
7315
2



特 文庫 10
7315
2

西洋雜誌卷二

楊江學人集刻



此書卷首より如く各國王公の世系并に
盛衰は大概を。一卷より一國の概況を。但し
オランダ。フランス。イギリスの三ヶ國は事蹟を。
西洋事情 友人福澤諭吉著 其略見し。アメリ
カ合衆國の略史ハ。同書并に海國圖志。聯



邦志略。ワシントレ軍記等。既子板行の書多
くれば。これを略し。毎定其系譜の
筆ぐ。近日西洋五代一覽といふ書刊行
べし。看者出づを待く参考に備ふべし。

井ルレム第一王

父井ルレムオ六の代までハ。オランエ公
の爵しし。和蘭合衆十七州の
長より。いさぐ王位に升るものなり。此王
安永元年子生也。文化三年父の位を

嗣て。井ルレムオ七と号し。フランス帝ナポ
レオン戦争の時。軍功あり。依る。文化
十二年諸國會盟の後。爵を進む。和蘭
國王と号す。改めて井ルレム第一世と号し。天
保十一年位を譲り。弘化元年没し。

井ルレムオ二王

寛政四年生。天保十一年即位。
嘉永二年没
死アシナ。ホウロウナ
オロシヤ帝。ホウルオ一の女

井ルレムオ三王

副名アレキサンドル。ポウル、フレテ

リキ、白テウエイキ 文化十四年

生。嘉永二年即位。すふも今此

和原王よりオランエ、ナスサウのフリンス爵、

リュクセムブルグの大公爵、リムブルグ此

公爵を兼ね

妃

ソマ

ウルトムブルグ王井ルレムの女

天保十年オランダに嫁す

井ルレムフレデリキ、ヘンデリキ

文政三年生。リウテナント

アドミラルス任じ。且

キセムブルグ國の吏務を摂理す

夫人

アメリカ

サクセン空イマル大公の女

女

井ルレム大マリヤ、ソヒヤ、ロザサ

文政七年生。天保十三年サクセンウエイ

マル、エイセオク大公カール、アレキサンドル

子嫁

世子
井ルレム、ニコラース

天保十一年生。今リウテナント
アドミラル、リウテナント、セ子ラル

騎軍監督を兼ね

井ルレム、アレキサンドル

嘉永四年生。グレナチール
及マーゲル隊の第二リウ

テナントあり

井ルレム、フレデリキ、カール

寛政九年生。陸軍元帥

プロイス國皇

ストハーレンの歩軍レジメント第二隊持を

兼ね

夫人

ロウ井サ

プロイスの先王フレデリキ、井ルレム
オ三の女あり

女
マリ、アテナ

文化七年生。プロイスの公子
フレデリキ、アルベルト子嫁

女
口ウ井サ

文政十一年一女生 嘉永三年ズエーデン
國王カールル弟十五子嫁に

女
マリヤ

天保十二年生

○兵士食量の定則

和蘭より兵士の毎日分ち給ふる食料の
常量左の如し。

麩包 一斤の四か三 我二百枚 毎日

但し麩包の代りにビスコイトを食ふる

ときハ一日に半斤 百三十枚なり

牛肉 生より一斤四分の一ツ 半月

我六十七枚

同 塩漬 目方同断 一ヶ月以内 七日

猪肉 燻しより 一斤の八分の一ツ 四日

我三十三枚

同 塩漬 目方同断 四日

塩 一斤の六十分一ツ 我四枚 毎日

米 一斤の十六分一ツ 我十七枚 半月

但し生の牛肉は添く渡り

精げら カラスギ 燕麦 日方同断 七日

但し牛の塩漬と同日は渡す

青き エンドウ 豌豆 一斤の十一分一ツ 我廿四枚 八日

但し豚の肉と同日は渡り

ゼ子ーフル酒 一カンの廿分一ツ 毎日

我五合五勺を廿人分るなり

右の外

酢 一カンの廿五分一 五合五勺を廿五人分るなり

青菜 胡椒 炭薪 蠟燭 サボン

等を渡り

エイド、メモアルといふ書 フランス人著述 右の外尚

左の品をも渡りべしと云へり

葱 子ギ 一人ニ二本ツ 一ヶ月以内 十三日或六十四日

干鱈

目方 一斤の八分一ツ

一ヶ月二

二日

酪

又ハ 豚脂

目方

〇斤〇三 我八匁ツ

毎日

乾酪

目方

同

同

芥子

目方 〇斤〇〇二

我五匁余

同

葡萄酒

半カン

我二合八匁ツ

同

但し上等士官の〜

ビール酒

半カンツ

同

同

飲水

三カン、八五ツ

我二升一合余

同

馬鈴薯

新あれバ

一ツツ、六

我九合 三匁

古々れバ

二ツツ、一合

我一升

同

甚古々れバ

二ツツ、三

我一升 三合許

蕪菁根

又ハ 胡蘿蔔根

〇ツツ、八五

我四合 七匁

一ヶ月二 五日

菜漬

一斤の四分一 匁ツ

一ヶ月二 九日

又英吉利人ペレイラの書に。日耳曼列國連合隊の兵士に給する食量を載せしむるハ左の如し

麩包 一斤。二 我二百七十一匁

肉并み脂肪合々。斤一六 我四十三匁

馬鈴薯并み豌豆蚕豆 合々。斤六 我百六十匁

青菜。葱の類合々。斤一七五 我四十七匁

ビール 一カンの四分一 我一合四匁

焼酒 一カンの半分 我二匁八才

右の外各國食料の渡し方。少しの異同を
つけども。大抵推して知るべし。但し土地の氣
候と産物の多寡に依る。自然の異同無き豈
能くん。極北寒國よりハ多く肉を食せざれば
寒は堪へざり。人身虚弱となり。赤道に近き
熱國より肉を過食せれば。必は悪き病を發
す。故に寒國よりハ専ら肉を食ふべく。熱國

てハ穀菜蔬の類を宜しとす。只日本唐
國。エウロパ中部の諸國。北アメリカ合衆國等
の如き。寒暖中和の地ニ於てハ。穀肉共ニ併
せ食し可なり

麩包パンを小麦粉の上品ありのものを製し
をよしとす。凶年或々他の故障ありて。小
麦粉拂底なるときハ。燕麥。大麥。米。蕎麥等
の粉を交へて製する事もあり。何れも

小麦の佳品ニ及ぶざるなり

小麦二百斤を挽き。糠三十斤。粉百六十八斤
を得。減耗ヘリク凡二斤なり。此粉を麩包パンを製す
まば。二百六十二斤半とあり。ビスコイトを焼け
ば。百六十八斤七五とありと云ふ。大略粉一斤
より麩包ハ一斤半。ビスコイトハ一斤を得るな
り

猪肉を生し兵士に渡は甚稀なり。又猶太

ヨード

教の宗門に入らざる者ハ。豕を食せん。故子毎
日牛肉を喰ふを與ふあり

食物の人身を養ふ力いづれも一樣なりん。
其比例大凡左の如し。

麩包一斤を馬鈴薯二斤半より同く
麩包三百六十七匁と肉百五十三匁と合きれば

馬鈴薯一貫四百八十六匁より同く
米。豌豆。蚕豆等ハ一斤よりいづれも馬鈴薯

三斤半許よりあきあり。

○化學沿革の話 友人宇都宮
鑛之進譯稿

此地球上にありし物々の原質を見
出し。其原質の相聚して体を成す所以と。
物質の互に變化する理とを考究するの學
問を名けし化學と云ふ。然るに元來化學
と云ふ名の原語ハ。西洋の語よりあり。東方
より轉じてくる語にして。昔々銅鉄鉛錫の

如き賤劣の金屬を化して。金銀を生ぜしむ
の術なり 漢名點金之術

按て點金術の原名アルキミー或ハアルケミー
と云ふ。是れアラビヤ國の語なり。アル
冠詞キミー又ケミーを祕密の義なり。此
術を講究する人をアルケミストと稱す。即
ち方士術士の謂なり。此語轉トク。ギリシ
ヤ國。ラテン國に入る。西洋諸國に通ズ。

但し此點金術ハ漢土より。丹砂可化黄金。
あど云ひ方士の類なり。固^{モトヨ}り真
其法有るよしあど。此方の俗説。西洋
人ハ日本の銅を買て黄金を製するあど
云つるも。亦是等の誤を傳へたるなるべし。
扱後世アルの二字を去りて。キミー又
ケミー。又キミカ。又キミヤ。又キミス
トリーあど稱す。是ハ昔の如き妄誕の術

あり。即ち方今日、新し月毎に明な
 る化学の原名なり。右の如く称呼の一あり
 ざるハ、洋字 $\text{OH}^{\text{キ}}$ のカキケコ、サンスセツの二音
 ある故に。各國呼法同じくざるの。又ゼ
 ルメンよりサイデコンストと云ひ。和蘭より
 シケイキンデと云ふも。亦化学の別名なれ
 ども。是ハ分析術の義にして。其技を以て
 命じたる名なり

然るは明應の頃より。医家専ら此術を学ば
 ざる成り。其故ハ此時代の人。此術に依
 る所謂^{イユル} 靈石を製し出さん事を務むる者
 殊に盛なり

靈石と云ふ其妙不思議ある石と云ふ義ハ
 一々。英吉利語よりハ、ヒロツーフルス、ストーン
 和蘭よりハ、ステーン、デル、ゼイセンと云ふ。是
 亦想像の^{オモヒヤリ} 名けたる者なり。真に此

物有るハ何れ也。

灵石を奇妙無双の薬劑とし。只賤金を化
し。黄金を生じ。るの事あり。然く人身を
強壯し。真火を以て魂魄を入。万病共
治せ。びと云ふ。夏無しと云へ。此の如く
得難き物を求めんが為。各國の学士。力
を費す。夏二百余年なり。

此時代の記。ハ。七金を七曜に配當し。此
内黄金白銀を貴びて。日月に比し。其他の
五金を五星に比す。銅鉄鉛錫ハ。何れも賤
悪の品なれども。術を以て化し。金銀を
變ぜしむべし。水銀ハ頗る貴金に近き者
なり。若し凝結せれば。即ち銀に化さべ
しと思ひ。由なり。而く硫化錫の一種
あり。ヒューフゴウド。医薬に用る。カメル等
も。皆此時代の灵石を造り出さんとす。

て。偶然に製し得る者なりと云。抑其後
化学沿革の支に付て。面白き話少く
といへども。紙數に限あるにハ次卷に續き
て訳出はべし

西洋雜誌卷二

